

小諸アバンティ村マスタープラン



01. 立地環境



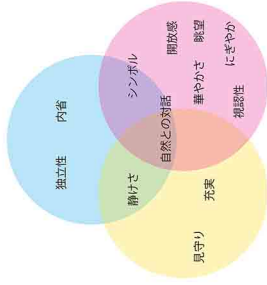
急な傾斜面をどのように活かすか、生活領域の確保

整備された木立の中は快晴で様々な屋外活動を創記させる

雄大な遠景、視界が開け、開放感を味わえる

02. 豊かな環境を最大限に活かしたゾーン

木立の中の平地：カフェ&ショップゾーン



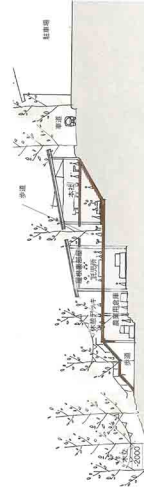
開けた平地：オーベルジュゾーン
木立の中の緑地帯：本社ゾーン

03. 村内のインフラ・動線



04. 傾斜によって上下につながる本社ゾーン

体育館の南側斜面に、本社、託児所、託老所を設ける。ここでは、急峻なので、デッキの上下で2層設けることが可能となる。つまり、駐車場から本社と託老所のメインフロアにアプローチでき、体育館西側のスタッフ用駐車場まで同じレベルで移動が可能である。また、芝生広場を迂回した車やカヌーは本社のデッキまでトレイルレベルと託老所に繋がる。



05. 自然を楽しむオーベルジュゾーン

現在、管理棟のある位置にオーベルジュゾーンを設ける。レストラン、宿泊棟ともに、オーベルジュゾーンによるカブキ、リネ、コブシや室内を体験でき、地元野菜を使った食事を提供する。ロビーは南側斜面に大開口をとり、当地の自然環境を最も象徴的に見せる場となる。レストラン棟は東側にデッキがあり、浅間山など遠方の眺望を楽しむことが可能。西側の宿泊棟、コアゾは急斜面のなかにひっそりとたたずむことお互いにじやますることなく、自然を堪能できる。



06. 多様な使い方が可能なカフェ&ショップゾーン

現在、マルチ会場でもあるキャンプ場エリアの手に、カフェ、ショップ、ギャラリーを設ける。これは比較的平らで、高い木立に囲まれた森林エリアである。ロータリー脇の階段を上るとすぐにカフェ前のデッキがあり、木漏れ日を窓しながら、カフェやショップを楽しむことが出来る。また、建物の坪数があり、オーベルジュゾーンとして買出し出すことも可能で、置が自然に溶け込まれるから創作し、美観する場として機能する。



07. 四季の移ろいによって変化する機能



春の風景：芝生広場で子どもWS
「アバンティ・キッズWS」



夏の風景：オーベルジュデッキで納涼大会
「アバンティナイト」



秋の風景：ギャラリー&カフェを併せた
「アバンティ・アートフェス」